

## 転倒・転落についてのチームケア ーリスクを減らしその人らしい 生活を続けるためにー

社会福祉法人美芳会 養護老人ホーム するが荘  
機能訓練指導員 鈴木美里  
支援員 鈴木信汰郎

1

## 養護老人ホームとは

現在置かれている環境では生活が難しく、経済的にも問題がある65歳以上の高齢者が市区町村の措置によって入所できる施設

### 【具体的な入所者像】

- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 独居の高齢者         | 6. 認知症や精神的な障害           |
| 2. 無年金など経済的に困窮した方 | 7. 他の法律に基づく施設に入所できない高齢者 |
| 3. 虐待を受けている高齢者    | 8. ホームレス                |
| 4. 要支援者・要介護者      | 9. 犯罪                   |
| 5. 身体的な障害         | 10. 賃貸住宅から立ち退き          |

2

## 養護老人ホームするが荘

定員90名  
うち特定施設入居生活介護  
定員30名  
緊急ショートステイ等  
定員1名



3

## 取り組んだ課題

### <するが荘の課題>

- 年々転倒する入居者が多く、機能が低下し移動形態の変更や特定施設入居者生活介護へ移行する事が多かった。
- 特定施設入居者は様々な機能訓練機会があったが、転倒がみられた。
- 養護の入居者は自立度が高くレクリエーションのみで個別課題によっていた。

### <目標>

本人含む多職種連携チームケアする事で  
それぞれの入居者が抱える課題の改善につなげたい

※本症例は同意のもと記載している。



4

## 具体的な取り組み

A氏 女性（特定施設入居者生活介護利用）【診断名】メニエール病  
【既往歴】高血圧、骨粗鬆症、高脂血症、前頭側頭型認知症、白内障

### 【全体像・課題】

貧血により全身状態が悪化。独歩していたが、徐々に動作の不安定さにより車いすへ変更。トイレ動作も二人介助で実施や食事の際座位姿勢の崩れがあり介助量が多く、バーセルインデックス（以下BI）40点。認知機能低下もあり身体機能を過大評価し、自己にて動く頻度も多い。

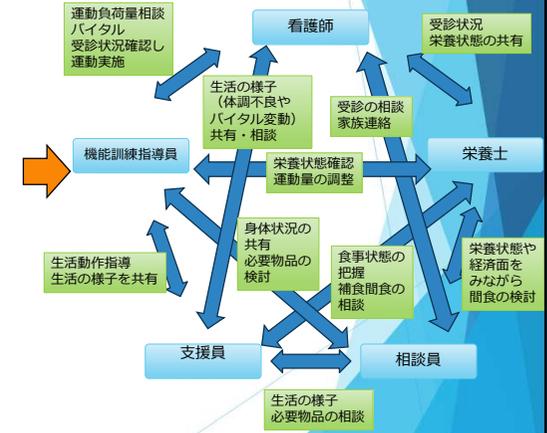
↓

転倒・転落の増加

5

## 具体的な取り組み

A氏の意向を確認し、ケアプランを作成。  
4か月に1回面談をA氏、相談員、支援員で行い、同意のもと個別支援計画書作成。  
【転倒・体調面・認知面】



6

## 具体的な取り組み

転倒予防のためベッド低床にて対応。  
貧血の数値改善せず、受診した所指定難病発覚。  
定期的な薬剤投与や受診につなげるために医務や相談員が調整を行い、家族連絡・協力が得られる。

↓

薬剤調整をすることで、徐々に貧血の数値改善  
栄養状態を見て補助食を付加

↓

身体機能向上

7

## 具体的な取り組み

トイレ行きたい気がする。  
なんもないけどトイレが  
気になってしょうがない。



こんな話も聞かれているよ

こんな課題もどうか



CF時に気をつけた点：イメージがしやすいように生活場面での注意点を伝える。  
出来ないことだけではなく、出来ることもしっかりと情報共有する。  
目的や必要性を伝えつつ、意見が偏らないように他職種に意見を聞き、コミュニケーションを図る。

↓

余暇活動の提供。  
決定事項はTeamsのや24時間シートを使用して共有。

8

### 具体的な取り組み

居室環境では・・・

うまく音が届かない  
ピッチに飛ばした方が  
いいと思う

I-1 設置

センサーマットに変更

9

### 活動の成果と評価

A氏	介入前	介入後
転倒・転落	13件	7件
BI	40点	45点
長谷川式簡易 知能評価 ( 30点 )	11点	16点
状況	トイレの事で そわそわしてしまう	塗り絵等を行い 落ち着いている ことが多くなる

10

### 活動の成果と評価

- ▶ 余暇活動として落ち着いて生活できる時間が  
増えたことで、転倒・転落の回数が軽減したと  
考える。また、脳が賦活され認知機能が  
改善された。
- ▶ 色々な意見により1日の流れを知ることができ、  
職員も把握しやすく転倒予防に繋がった  
可能性もある。

11

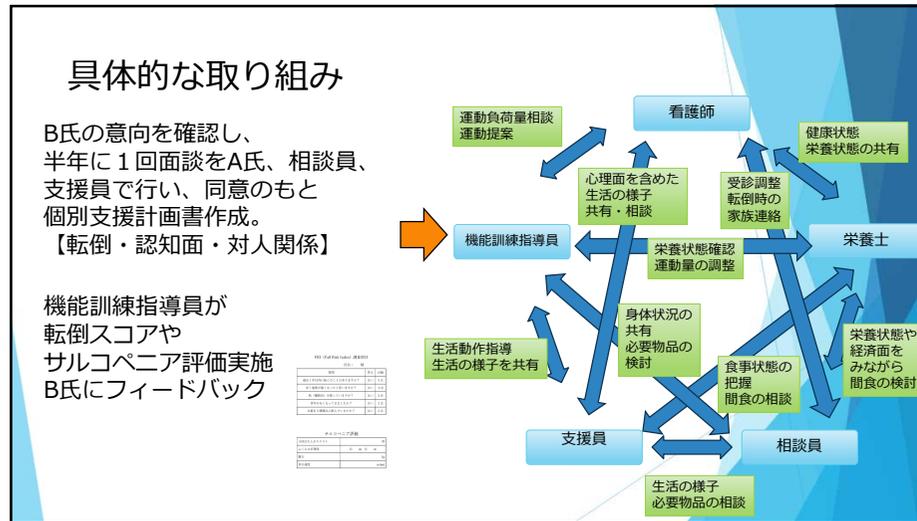
### 具体的な取り組み

B氏 女性 (養護老人ホーム入所)

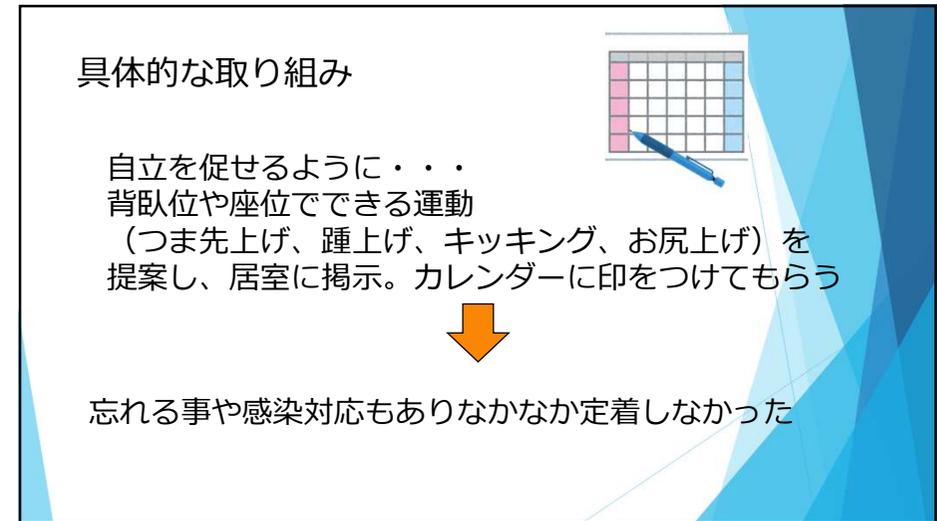
【既往歴】難聴、認知機能低下

【全体像・課題】  
自立しているお部屋であり、職員配置も少ない  
環境である。難聴であり、大きな声で話す必要がある。  
日常生活は自立しており、掃除や洗濯も行うも  
転倒スコアは13/13点と高かった。  
身体機能に対して過大評価している面があり、  
杖未使用で年1回は転倒していた。

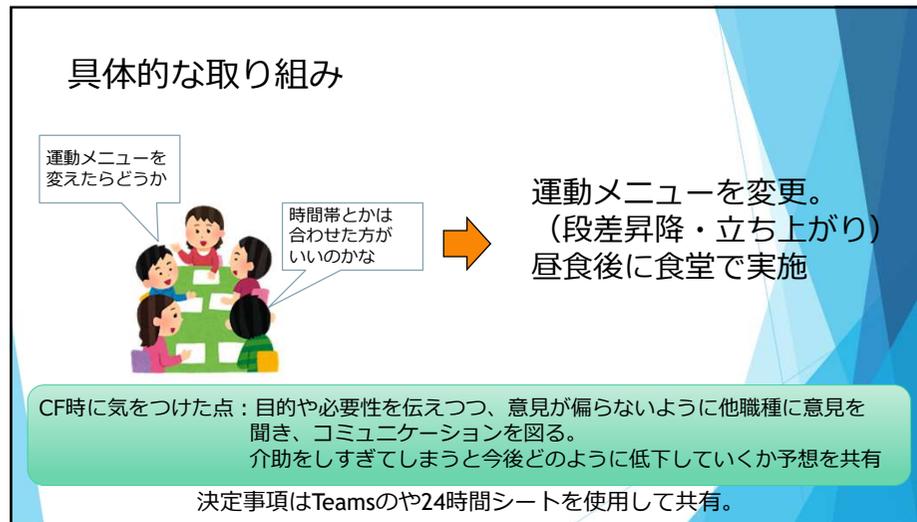
12



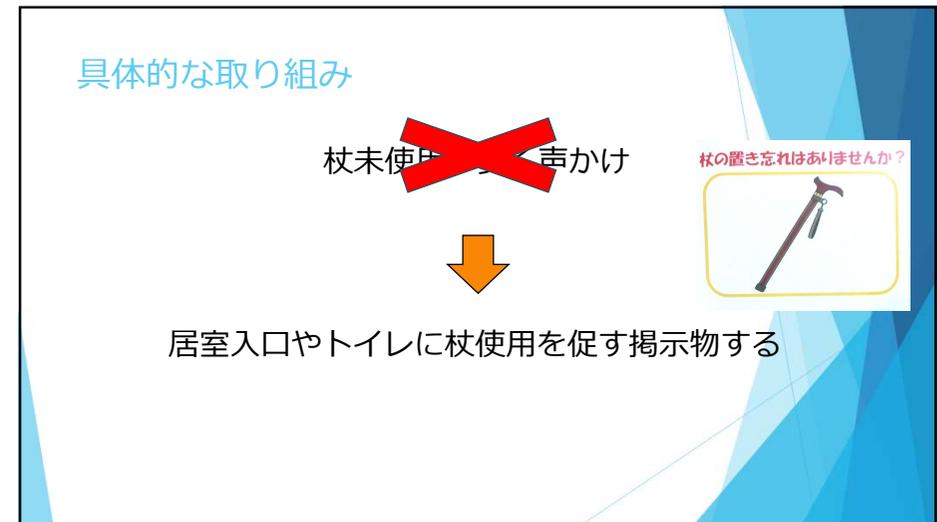
13



14



15



16

## 活動の成果と評価

B氏	介入前	介入後
転倒・転落	1件	0件
転倒スコア (13点)	13点	8点
状況	杖未使用が多かった 運動定着しない	杖使用頻度が増えた 運動が定着した

17

## 活動の成果と評価

- ▶ 定期的に運動ができていることにより  
転倒・転落が減った。
- ▶ 目に入る場所に掲示物をしたことにより  
杖を持つ意識が高くなった。
- ▶ 職員も日課に結びつけたことで流れとして  
把握しやすくなった可能性がある。

18

## 活動の成果と評価

A氏・B氏ともに決定事項は個々に記録に落としていたが、  
漏れてしまうことがあった

Teamsへの記載や24時間シート  
を使用して1日の流れを把握で  
きるようにした

できていないときに  
コミュニケーションをとり、  
実施する為漏れが少なくなった



19

## 今後の課題

- ▶ 支援が難しい入居者への転倒予防策
- ▶ 感染症対策時の機能維持の検討

20

ご清聴ありがとうございました